

# 修学旅行で 地震を考える

国際基督教大学(ICU)高等学校  
滝川 洋二

## 沖縄から神戸に

01年9月11日以降、米軍基地の島沖縄の危険性から多数の修学旅行の行き先変更があった。ICU高校も色々な経過はあったものの2002年4月に予定していた修学旅行の行き先を神戸に変更した。

すでに沖縄での下見も終えていたので、完全に振り出しに戻ってのスタートだった。今までの沖縄の修学旅行での平和学習と、自然を学ぶ学習のコースは、十数年の蓄積としっかりした内容で、生徒の満足度も高く、正直それに対応できる内容は難しいと感じて始めたコース作りだった。北海道から九州まで希望がでる中で、どんどん無くなっていく修学旅行受け入れ可能な宿や、安全性、たくさんの選択コースの設定が可能な魅力のある場所を探し、震災学習も可能な神戸を選んだ。

神戸(選択コースでは姫路も人気だった)・淡路・大阪は、他の地域には無い、歴史と文化が狭い地域に密集していて、全体のコース設計には便利だ。といっても初日の震災コースを作るのは、大変だった。12月に下見に行ったときは、自転車で回るコースにしようと考え、自分たちで見て歩ける場所を探したのだが、復興が早く、震災の跡を見つけることが難しいのが実状だった。相談した県立芦屋高校のS先生(震災学習では著名な方)から神戸市市民局、市民安全推進室市民防災課の方を紹介され、3月に個人的に下見に行った折り、お会いして、(株)神戸ながたTMO代表の東朋治氏を紹介していただき、すぐに新長田まで行き東氏にお会いする経過の中でコースの概略が見えてきた。それは新神戸から長田地区まで、震災復興に一役買った「買いもんらくちんバス」(マイクロバス)の中で語り部の話を

聞き、その後長田地区の商店街で被災された方々の聞き取り調査をするというものだった

別表に今回実施したICU高校修学旅行の全体のコースとその選択者数を紹介する。震災学習は23日(初日)のコース別の中と、24日の全員で淡路島北淡町で震災の講話を聞き、震災の跡を見るというものである。

## NHKがICU高校のコースを取材

23日に新神戸駅を降りると、生徒はコースに別れて次々に出発する。そこにNHK神戸の方とスタッフ、(株)神戸ながたTMOの代表の東朋治さんやスタッフの方、今回語り部として解説してくれる近畿タクシー・森崎清登社長が待っていた。森崎さんは、震災復興のための多様な活動をされていて、NHK神戸が取材をしている関係で、ICU高校の震災学習も取材されることになった。

そのおかげで、NHKの方の努力で、4月27日に一般公開予定で、23日にはまだオープンしていなかった「人と防災未来センター」を修学旅行としては最初に見学することができた。このセンター見学のと、森崎さんの案内で長田地区に行き、商店街の住民から聞き取り調査を行った。生徒は、このセンターと聞き取りの両方に強いインパクトを受けたと語っている。

### 4月23日(火) 神戸市内・姫路 班別行動

9:20 東京駅集合 13:19 新神戸着

①北野工房洋菓子作りコース41人、②北野工房で職人から学ぶ+異人館コース1 プレスレット作り16人 皮革小物創作22人、③異人館充実コース33人、④クルーズ・海洋博物館コース41人、⑤震災に学ぶコース19人、⑥姫路城コース69人

17:30 神戸メリケンパークオリエンタルホテル着  
18:00 中華街で食事

### 4月24日(水) 淡路震災学習・鳴門見学

8:00 ホテル発 9:30 北淡町震災記念公園(講話・見学)

11:20 鳴門満の道～昼食～大鳴門橋架橋記念館・鳴門観潮船 16:00 バス発 19:00 六甲山にて夕食 21:00 神戸メリケンパークオリエンタルホテル着

### 4月25日(木) コース別選択コース

8:30 神戸メリケンパークオリエンタルホテル発

①宝塚・手塚記念館コース50人、②大阪歴史研修コース9人、③ユニバーサルスタジオリゾートコース182人  
17:00 甲子園都ホテル着夕食後 学年交流レクリエーション

### 4月26日(金) 大阪市内班別行動

8:30 ホテル発～大阪市内班別行動 14:30 新大阪駅集合

02年度修学旅行神戸・淡路・大阪概要 4月23日～26日



(写真1) 長田町商店街で森崎さんと女性の商店主が生徒に説明しているところ



(写真2) 震災復興に一役買った「買いもん楽ちんバス」(マイクロボス) 内で森崎さんから震災の体験を聞く生徒

### 震災学習の拠点となる「人と防災未来センター」

この「人と防災未来センター」は、広島原爆資料館や、沖縄のひめゆり平和祈念資料館などと並ぶ修学旅行での学習の拠点となる施設になるのだろう。今回最も印象に残ったのは、4階の「1・17シアター」だ。これは3次元映像に加え低重音で「揺れ」の感じも少し体験できる。「ゴジラ」の特殊撮影担当者、川北紘一氏を監督とする7分間の作品とのこと。次々に神戸・淡路・姫路などの各地で建物や道路等の建造物が倒れていく超大型の映像を見るのだが、スーパーマーケットに残っていた実際の映像などと、おそらく再現したのではと思われる、でもきわめてリアルな映像のあまりの迫力に、神戸市民には評判が良くない面があると聞いた。映像がリアルすぎて、地震を体験した人の中には、強度のショックを受ける「危険性」があるからだ。この映像は、このシアターで無ければ同じ迫力は得られないだけに、今後もこのセンターの目玉になるだろう。

4階ではもう一つの映像を見た。地震で姉を失った被災時15歳の少女が、自分がなぜ生きているのかを考えながら生活し、周りの人との交流の中で希望を持って生きようとする、心にしみこむようなドキュメントタッチのストーリーの中に、震災の大変さだけでなく、神戸の人たちがこれを契機に新しい街づくりや生活をスタートしているひたむきな面を紹介してくれる。

僕は、この二つの映像を見ただけで、神戸にきた価値があったと実感した。

しかし、このセンターの中にはまだまだたくさんの震災の事実が豊富に配置されていて、さらに「震災の語り部」の方々が少数の人を相手に話してくれ

るコーナーもあり、このセンターでかなりの時間をゆったりと過ごすことがお勧めだ。2003年春には隣に広さとしては同じ程度の建物が完成し、展示も始める。世界の事情には詳しくないが、最大規模の震災センターになるのではないかな。

### 商店街での聞き取り調査

今回の修学旅行の目玉の一つは、長田地区の商店街で聞き取り調査をすることだ。神戸市内の全焼棟数が約7000棟の中で長田地区は4800棟と、震災の被害では最も激しい。復興に向けた商店街の方々が出資して作ったのが(株)神戸ながたTMOで、神戸市も援助している。経済的な復興だけでなく、震災の体験を伝える活動にも意識的に取り組み、その両方を追究する「商店街で聞き取り」というこの企画は、勧められた最初にはよく理解できなかった。商店街の中で、「あのときの話だけはしたくない」という人にも聞いてしまう不安があったからだ。

実はそこに(株)神戸ながたTMOが修学旅行受け入れ実践を通じて蓄えた工夫があった。「歓迎国際基督教大学高校様ご一行」と書いた紙が貼ってある商店は、そこで話が聞けるシステムができていて、約200の商店にこの紙が貼ってあるそうだ。

長田地区は、「そばめし」発祥の地としても有名で、お好み焼きの種類も豊富なので、商店街で食べることも勧められた。こういう工夫があちこちにあるのがおもしろい。

商店街を歩いてみて、想像以上に広く、また昔ながらの雰囲気を残していて、その雰囲気を味わうだけでも面白いと感じた。

次は生徒によるこの日のレポートの一部である。

吉良 綾乃

2003年4月23日火曜日午後。私を含むICU高校生「震災に学ぶコース」は阪神・淡路大地震7年後の様子と体験談を聞きに、神戸南の長田区へやってきた。神戸復興のために頑張ってきた森崎さん（近畿タクシー社長）に案内をして頂いた。

移動時の乗り物は森崎さんがかつて神戸復興プロジェクトの一環として走行させた「買いもん楽ちんバス」だ。住民が市内の買い物が楽にできるように企画したという。座席のカバーにも「買いもん楽ちんバス」のロゴが印刷してあった。実は私は最初そこまでこのコースを熱心にやろうとは思っていなかったけれども、細かい所まで気を遣っている森崎さん初め、震災を体験した多くの人が、熱心に復興に取り組んできたんだなあ、私も熱心に聴かなくてはなあと思った。

森崎さんの話によると、「震災では人も死に、大切なものが沢山失われたけれども、みんなの町という意識が根づいた。震災がなかったら私も町のために何かしようとは思わなかったでしょう」と。こうして私達高校生に語っているのも、神戸住人みんなの、復興できたよいい町を沢山のの人に知ってもらいたい、ということなのだろう。その気持ちの中には全国、世界から来てくれたボランティアの人達への感謝の気持ちも含まれている。

(中略)

「人と未来防災センター」の次に商店街へ行った。最後に聞きに行った商店の人の話が印象深い。「こんな揺れだったよ」と思い出したように、指の先からひじを縦にうねりながら話してくれた。その人のお父さんは、「幸いだったのはなあ、偶然地震が起こる前の晩に大きな樽に水を入れたものを玄関軒下に置いといたことだ。もう本当に水がなかったから、



(写真3) 生徒のグループが商店内でインタビュー

周りの人も大助かりだったんよ。」

「そしてもう一つ幸いだったのは大阪の人が沢山来てくれたことやなあ」とは長男の人。「もし、大阪で先に震災が起こったら、むしろ神戸の人間はどれくらい行ったか分からへん。」それだけ人の助けがありがたかったということだろう。そして震災後、みんなで協力しようという意識ができた。

「震災は確かに大変やったけどな、それがあって優先順位も変わった。財産とかお金もあるけど一番は人づきあいや。」

いつも忘れないように見える所に書いてるんや、と言ってみせてくれたのは、「一人で百歩進むより、百人で一歩進もう。」確かボランティアの人がそういっていたそう。

震災では人の本性が出てしまう、と長男の人は話した。どんな、と言っても分からない。だから、そういう時にも冷静でいられるように日頃からの訓練が必要だと私は思った。

神戸南は復興というより新しい町を完成しつつある。人口は震前（戦前・戦後をまねてこう呼ぶと聞いた）より減った。海辺はまだ仮設住宅の建設地だ。なんとなく寂しい。でも形式的にも心情的にも落ち着いてきているのではないかとも思える。

書ききれなかった登場者の体験全体を書こう。

最後の商店（聴いた時間は約15分）

被災時はどこにいましたか？

長男の人は商店2階寝室。

隣の家のベランダへ逃げようと片足を掛けた時、縦揺れが来た。「もう少しで股裂ける所やった」（お父さん）お父さんは離れた家の寝室。

もう一人の商店の人は商店街の家の寝室。

地震後どうしたか？

何が起こったか分からなかったのでまず裸足で外に出た。足は切れたが気にしない。もちろんパジャマ。（長男）

もう一人の商店の人は被災状況や火事の写真を取りに行った。

状況：水・ガス・電気ストップ／火事になっても消せる水なし／大樽の水が助かった／ボランティア・自衛隊の人が来て助かった

メッセージ：懐中電灯は枕下に／履物を寝床近くに／一日でもいいから水なしの生活をしてごらん／近所の人にあいさつくらいして、日頃からつきあい

をよくしよう

「震災に学ぶ」コースに参加して

越前 ゆか

私は、被災された2人の方に会うことができた。一人は、商店街で話を聞いた人で、震災によって店を失い、その後ご主人にも先立たれた方だ。その人の言葉で一番衝撃的だったのは、私が「震災で人生観が変わりましたか？」と聞いたとき、「辛いよ。毎日が辛いよ」と言っていたことだ。町は完全に復興したかのように見えるのに、私はそのときすごく生々しい傷跡を見た気がした。

もう一人は、アーケードの商店街の店にいたおばあちゃん、その人は、震災でも全く被害を受けなかったようだ。とても明るく「人生毎日人に感謝していれば必ず幸せになれる」と教えてくれた。70歳近くになる方だったので、その言葉にも人生を生きてきた深さがあって、私は余りにも対照的な二人の姿に当惑してしまった。

確かに日々感謝していれば幸せになれるかも知れないけれど、私は、それだけではどうしようもない、不条理な流れもあると思った。

毎日東京で日常生活を送り、TVでしか震災を見たことの無かった私は、町の機能や景色を見て「こんなに復興したのか。」と思っていたけれど、実際被災者の話を自分の耳で聞き、ぐにゃぐにゃに曲がったアーケードを自分の目で見たとき、本当の意味であの震災を知った気がするし、その爪痕をみた気がした。自分自身で震災について感じる事ができたと言うことがこのコースの良かったところだと思う。

### 事前学習

修学旅行で震災から学ぶための事前学習には、修学旅行委員（1クラス2名—3名）と、震災学習コースを選択した生徒がグループに分かれて調査・研究をし、壁新聞と、学年全体が集まるホームルームの時間を2月に作り、50分の事前学習を行った。

「東京に大震災が起きたら」「阪神大震災から学ぶ」「いざというときに何をすべきか・何を備える」を、インターネット・本などから調べ、発表した。

事前学習として、十分では無いかも知れないが、調べた生徒には強く印象に残り、地震がより身近な



(写真4) 被災の痕の残るアーケード

問題としてとらえることができるようになったとの感想が多かった。

### 今後の修学旅行の震災コース

神戸・淡路での修学旅行に決めるときから、大きな理由の一つが震災学習であった。修学旅行を終えて、僕が感じているのは、とりわけ関東では、大きな地震がここ数年とか10年以内にと警告されているだけに、修学旅行の目的として平和学習・歴史学習も大切だが、震災学習もきわめて重要な時期になっているということだ。

予定を組んだ時点では、もっとも震災学習で安心して行えるのが淡路島の北淡町震災記念公園での講話・見学だった。240人全員をここに連れていくことにしたのだが、実際ここでの講話も長田町で被災した方の印象深い体験談だったし、野島断層とその断層の上にある家を保存しているので、かなり地震がリアルに見える。

しかし、これからは「人と防災未来センター」<http://www.dri.ne.jp/>が第一候補になるだろう。ここに行くだけでも震災学習に必要な要素はかなりそろろう。また神戸ながたTMO <http://www.kobe-nagata-tmo.com/>に相談すると、グループでの商店街の聞き取り調査をはじめもっと新しい提案がでてくる。神戸市役所の方に相談するともっと別の視点でも提案してくれるだろう。

ICU高校の修学旅行が、これからの震災学習の参考になり、より多くの学校に震災学習に取り組んでいただければと感じている。

写真提供 神戸ながたTMO (写真4を除く)